

2017年7月10日

公益財団法人 細胞科学研究財団  
「第二回塩野賞」受賞者ならびに平成29年度助成金受領者について

公益財団法人 細胞科学研究財団（大阪市中央区道修町3-1-8、理事長：塩野 元三 塩野義製薬株式会社代表取締役会長）では、「第二回塩野賞」受賞者として下記の通り、筑波大学 教授 櫻井 武博士に贈呈することを決定いたしました。受賞者には正賞（メダル）、賞状、副賞として1,000万円が贈呈されます。贈呈式は平成30年3月に行う予定です。

「塩野賞」は、過去に当財団が助成を行った研究を進捗発展させて、疾病の予防・治療に顕著な業績をあげた者に対して贈呈されるもので、財団設立25周年にあたる平成25年度から開始しました。周年事業として原則5年ごとに行われる褒賞事業で、今回が第二回になります。

また、平成29年度の助成事業として、下記の10名に対して、研究助成金を交付しました。

記

【第二回塩野賞受賞者】

櫻井 武（さくらい たけし）博士

筑波大学 医学医療系／国際統合睡眠医科学研究機構 教授

受賞対象研究業績：「オレキシンの生理機能の解明」



略 歴

- ・1993年 筑波大学大学院医学研究科博士課程卒業
- ・1993年 日本学術振興会特別研究員 研究員
- ・1993年 筑波大学基礎医学系 講師
- ・1999年 筑波大学基礎医学系 助教授
- ・2004年 筑波大学大学院人間総合科学研究科 助教授
- ・2007年 筑波大学大学院人間総合科学研究科 准教授
- ・2008年 金沢大学 医薬保健学総合研究科 教授
- ・2016年 筑波大学 医学医療系 教授現在に至る

受賞理由

櫻井博士は平成13年度の当財団研究助成「脳機能におけるオレキシン神経回路網の役割に関する研究」において、1998年に自ら同定した新規神経ペプチド、オレキシンを産生するニューロン（オレキシンニューロン）が構成する神経回路の機能解明に関する研究を開始されました。オレキシンニューロンにて特異的に機能するプロモーター断片をヒトプレプロオレキシン遺伝子の中から見出され、これを使用して多数の遺伝子改変マウスを作成し解析に役立てられました。たとえば、オレキシンニューロン

が後天的かつ特異的に脱落するナルコレプシーモデルマウス(orexin-ataxin3 マウス)を作成し、その表現型を詳細に解明されました。さらに、緑色蛍光タンパク質を発現するトランスジェニックマウス(orexin-GFP マウス)を開発し、オレキシンニューロンに作用する脳内物質を網羅的に同定されたほか、逆行性トレーサーを発現するトランスジェニックマウスの解析により、オレキシンニューロンに入力する神経細胞群の同定に成功されました。Orexin-ataxin3 マウスや orexin-GFP マウスは、世界中の大学のみならず、製薬企業等でもモデル動物やオレキシンの機能解析に広く用いられており、創薬研究に多大なご貢献をされています。

これらの研究により、オレキシンがナルコレプシーや不眠症にどのように関わるかを明らかにしてこられるとともに近年では PTSD やパニック障害とオレキシンの関連を明らかにする研究も進めておられます。櫻井博士らによる覚醒システムとオレキシンの関係を明らかにした一連の研究によりオレキシンは創薬ターゲットとして早期から注目を集め、2014 年にはオレキシン受容体拮抗薬は不眠症治療に用いられるようになっており、従来のベンゾジアゼピン系睡眠薬よりも安全で依存性のすくない睡眠導入薬として今後も大いに期待されています。さらにオレキシンは気分障害、PTSD、薬物依存、ナルコレプシーなどに対する創薬ターゲットとしても注目されており、さらなる臨床応用が期待されています。

**【平成 29 年度研究助成金受領者】**(敬称略、五十音順、所属は応募時)

助成金：1 年間 300 万円

ウォルツェン クヌート	京都大学 iPS 細胞研究所
片岡 圭亮	京都大学大学院医学研究科
合山 進	東京大学医科学研究所
柴 祐司	信州大学バイオメディカル研究所／医学部附属病院
滝澤 仁	熊本大学国際先端医学研究機構
豊島 文子	京都大学ウイルス研究所
眞木 崇州	京都大学大学院医学研究科
宮成 悠介	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター
三好 悟一	東京女子医科大学
山本 雅裕	大阪大学微生物病研究所

**【塩野賞について】**

公益財団法人 細胞科学研究財団が公益事業の一つとして行う褒賞です。当財団が生命科学の研究の振興を図るために行う助成事業の対象となった助成研究の中から、トランスレーショナルリサーチに則って進捗発展に顕著な功績のあった研究業績に対して行います。過去に当財団が助成事業において研究助成を行った研究者で、その分野において研究を進捗発展させて疾病の予防・治療に顕著な業績をあげた者が対象となります。原則として、5 年に一度 1 名が表彰され、受賞者には賞状、メダルおよび副賞が贈呈されます。

**【公益財団法人 細胞科学研究財団について】**

昭和 63 年 3 月 17 日に、塩野義製薬株式会社の創業 110 年を記念して、同社の拠出資金により設立

されました。生命科学の分野における、細胞を中心とした研究の助成及び研究者の育成並びに研究活動の国際交流の推進に努めることを目的として、以下の公益目的事業を行っています。

- (1) 細胞科学に関する研究・調査に対する助成, 研究者の育成並びに国際交流の推進
- (2) 細胞科学に関する研究の進捗発展に顕著な功績のあった業績に対する褒章
- (3) 細胞科学に関する各種講演会及びシンポジウムの開催
- (4) その他この法人の目的を達成するための必要な事業

詳細につきましては、細胞科学研究財団のホームページ (<http://www.shionogi.co.jp/zaidan/>) をご覧ください。

以上